

# 小牧市の分析まとめと 対策について【中学校】

令和7年10月

小牧市教育委員会

教育長 中川 宣芳

## 本年度の分析にあたって

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。小牧市の結果について、全ての調査教科において正答率が全国平均を上回る学校が複数ありましたが、全体としては、教科によるばらつきはあるものの、全国平均とほぼ同等の結果となりました。

この調査の目的は、子どもたちの学力の傾向を捉えて、指導の充実・改善を図ることです。子どもたちの学力の傾向を正しく分析し、今後の授業改善に生かしていくことが大切だと考えます。

小牧市においても、子どもたちの学びの現状をしっかりと把握し、課題が残った部分を補いつつ、得意な部分をさらに伸ばしていけるような教育活動の実現につながるように、この調査結果を生かしていきたいと考えています。

今回は、理科の調査において生徒が一人一台のタブレット端末を使用し、文部科学省 CBT システムを活用してオンライン調査が実施されました。

## 学習態度・生活態度の状況

1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか 肯定的 75.7%

肯定的な回答は全国平均とほぼ同等でした。授業において自ら粘り強く課題解決に取り組み、探究的に学習していけるような指導を充実させていきます。

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができているか 肯定的 72.0%

授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいるか 肯定的 91.5%

肯定的に回答した生徒の割合が高かったです。今後も友達と協働しながら課題解決に取り組んでいけるように支援します。

国語・数学・理科の授業で学習したことは将来役に立つと思うか 肯定的 88.8%(国)・72.0%(数)・60.3%(理)

国語と数学に比べ、理科での学習内容と実生活とが結びつきにくいことがうかがえます。日常生活との関わりを捉えて問題を見い出したり、課題を解決したりする探究活動を大切にしていきます。

## 理科

平均正答率は、全国平均、県平均とほぼ同等の結果でした。平均 IRT スコアにおいては、県平均とほぼ同等、全国平均よりも高い結果でした。IRT とは、国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較することができます。

「エネルギー」を柱とする領域では、身近な電化製品の電気回路について探究する場面において、抵抗に関する知識が概念として身につけているかどうかをみる問題の正答率が高い傾向がみられました。

「粒子」を柱とする領域では、実験結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題に課題がみられました。

「地球」を柱とする領域では、大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりや表現できるかどうかをみる問題の正答率が低く、課題がみられました。

## 数学

平均正答率は、全国平均とほぼ同等で、県平均よりやや低い結果でした。

「数と式」の領域は、数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均より高い一方で、素数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題がみられました。

「図形」の領域は、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかをみる問題に課題がみられました。

「関数」の領域は、全国平均よりも高い正答率でした。事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向がみられました。

「データの活用」の領域は、相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率が低く、課題がみられました。

問題形式別では、記述式の問題において、無解答率が高くなる傾向がみられました。

## 数学

○ 「図形」について、観察や操作などの活動を通して実感を伴いながら理解できるようにしたり、「データの活用」について、データの傾向を捉えて判断し、その理由を的確に表現したりする指導に力を入れていきます。

○ 日常生活や社会の事象を題材とした問題を取り上げ、必要な情報を適切に読み取り、問題解決の見通しや方法について伝え合う中で、論理的に考察し数学的に伝える力を身に付ける指導をしていきます。

## 全般

○ 学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化するため、生徒同士の共感的な人間関係を土台とし、生徒が主体となり仲間と協働的に学ぶ「学び合う学び」の授業をより一層推進していきます。

○ 生徒が自ら課題を設定し、進んで情報を収集・分析し、他者と協働しながら解決策を、探究的に学習していけるように、指導を工夫していきます。

○ 引き続き一人一台タブレット端末を効果的に活用し、より多くの考えや情報に触れる中で考えを広げたり深めたりするとともに、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を進めていきます。

## 国語

平均正答率は、全国平均、県平均よりやや低い結果でした。

「話すこと・聞くこと」の領域は、自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向がみられました。

「書くこと」の領域は、読み手の立場に立って語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整える問題の正答率が低く、課題がみられました。

「読むこと」の領域は、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題の正答率が低く、課題がみられました。

「言葉の特徴や使い方」の領域は、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかを見る問題の正答率が低く課題がみられました。

問題形式別では、全国や県の傾向と同様に、記述式の問題の正答率が低い傾向がみられました。

## 国語

○ 「書くこと」の指導を充実させます。読み手を意識して表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えたり、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書いたりできるように指導をしていきます。

○ 「読むこと」について、小説などを読み、考えたことを記録したり、伝え合ったりする活動を通して、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えて読むことができるように指導を工夫していきます。

## 理科

○ 電流とその利用、運動とエネルギー、化学変化と原子・分子など、物質やエネルギーに関する事象・現象について理解を深められるように、観察や実験を工夫して行い、生徒が探究的に学べるような指導に力を入れていきます。また、科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深められるように指導を工夫します。

○ 生命や地球に関する事象・現象を科学的に探究するために、生徒が生命や地球に関する事象・現象に進んで関わり、その中に問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行うことができるように指導を工夫していきます。

毎日同じくらいの時刻に起きているか 肯定的 91.6%

朝食を毎日食べているか 肯定的 89.7%

全国平均と概ね同じ結果でした。家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが分かります。

あなたの家では主に何語で話しているか 日本語以外 5.2%

全国平均を上回る結果でした。本市は、外国にルーツをもつ児童生徒の割合が多い傾向にあります。日本語初期教室や国際教室での指導など、外国にルーツをもつ子どもたちの学力を保证する教育活動を進めていきます。

いじめは、どんな理由があってもいけないと思うか 肯定的 95.3%

人が困っているときは進んで助けているか 肯定的 92.3%

全国平均と同等の高い値を示しています。規範意識や仲間を思いやる心、共感性を育むとともに、教師が生徒一人一人の様子を見守り、いじめの防止に努めます。

自分にはよいところがあると思うか 肯定的 85.1%

自分の夢や目標をもっているか 肯定的 62.2%

全国平均と概ね同じ結果でした。自分のよさや個性を肯定的に理解し、自分の役割や将来の生き方を考えられるよう、キャリア教育をより充実させていきます。

1・2年生までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか。 ほぼ毎日 85.5%

インターネットを使って情報を収集する(検索する・調べることが)できるか 肯定的 92.2%

授業での指導頻度について、ほぼ毎日使用している生徒が、全国や県平均と比べて大きく上回る数値で、授業において日常的に使用され、考えの共有や学びの蓄積に不可欠な道具になっています。さらにICT機器の特性を生かし、個の学びや目的に合わせた効果的な活用を授業はもとより学校活動全体や家庭学習にも広げていきます。

## 質問紙調査から

## 各教科の結果から

## 今後取り組む 指導改善のポイント